



# 今月の推し本



『海ヤカラ』 照屋年之/著 ポプラ社/発行

1970年アメリカ統治下の沖縄県糸満。小柄だがたくましい小学5年生の少年ヤカラは立派なウミンチュになるため、毎朝漁に出かけている。ある日、青い目の転校生マギイと出会うが、彼はだれとも打ちとけようとしな。マギイの本当の気持ちは…。沖縄本土復帰の1週間後に生まれたお笑い芸人がレジャセールゴリのこと照屋年之が未来への願いをこめて綴った青春ストーリー。

## 『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』

川内有緒/著 集英社インターナショナル/発行

友人の誘いから始まった全盲の白鳥さんと巡るアートの旅。著者は白鳥さんとアートを鑑賞しながら視覚や記憶の不思議、生きること、障害を持つことなど、社会や人間について考え、自分自身を見つめ直していく。見えない人とアートを見る旅は私たちがどこへ連れて行ってくれるのか。誰かと美術館に出かけたくなる新感覚ノンフィクション。



『同志少女よ、敵を撃て』 逢坂冬馬/著 早川書房/発行

第二次世界大戦ドイツ対ソ連が激化する1942年、農村で平穏に暮らすセラフィマの日常はドイツ軍の急襲によって奪われた。母を撃ったドイツ狙撃手への復讐を誓い、セラフィマは訓練学校で一流の狙撃手になることを決意する。同じ境遇の女性狙撃手たちと訓練を重ね、共に向かった前線で彼女が目にした“真の敵”とは。デビュー作とは思えない筆力でアガサ・クリスティー賞大賞、2022年本屋大賞を受賞。現情勢ともシンクロする必読書です。

## 『エモい古語辞典』 堀越英美/著 朝日出版社/発行

日本の歴史の中で生まれ積み上げられてきた「暁降ち（あかとき-くたち）」「海泡石（かいほうせき）」「踏青（とうせい）」など、心ふるえる古語を厳選し収集。語彙（ごい）力でエモさを増強したい人におすすめです。古文入門書としてもお役立ちな一冊。

